

私達が育ち、住んでいる兵庫県は非常に自然に恵まれた環境良好の地域である。とくに北から南にかけて複雑に変化する地質、気候、フロラに適應して沢山の昆虫が棲息している。ところが近年これらの昆虫の中には絶滅に近いかものや、あるいは数が極めて少なくなつて行くものが増えつつある。

やがて手遅れの感が生じてもおぼつかず、これらの昆虫を保護することは、昆虫を人生の友として興味をもち、研究している者にとって最低の責任かと思われる。しかし、自然保護は単にその地域を保護区に指定し、人々の立入りを禁止するだけではその目的が達成できるとは言えない。やはりどの地域にどんな虫がいるかをまず調査し、さらにその虫の習性や棲息状況を詳しく理解することによって、始めてその成果が向上するのではおぼつかろうか。

現在、兵庫県には2,3の地域的昆虫団体が存在しているが、全県的の組織は無く、数多くの昆虫学者や愛好者がいるにも拘らず、そのエネルギーの結集を見ることができない。また文化的、経済的にも雄飛といわれる兵庫県に本格的な博物館がなく、個人的な努力によってのみ昆虫の採集、研究、保存が行われている。私達はこのような現状を憂い、県下の昆虫相を明らかにし、その生活史を詳細に調べることが目的として本会の設立に努めた。

当面、会員のデータを公表するために機関誌「きべりぼんし」を発行し、基礎的の資料の収集に努めると共に、会の運営を円滑に行うために会員間の情報交換、県下の各昆虫団体間の連絡網に努力したい。

本会の顧問に神戸大学教授 奥谷禮一博士を迎えることので

またこれら、会の発展に適正な指導者を得たことは、望外の事がある。また会の運営は、当分世話人数員に任せて行おうが、後に正式に幹事等の選挙を行い、会員の総意を反映し、組織を一新する。会員の増加は、会の質的充実、経済面の強化にもつながるなど、知人友人等への本会入会を、お誘い頂きたい。

〔文献紹介〕

野村 鎮 著 「日本産ヒゲナガビロウドコガネ属に就て」

桐朋学報 第22号 (1972) p. 109~137

Trichoserica 属を Serica 属のシノニムとし、1新種・2新亜種・2新名を加えて、日本産18種3亜種の検索表と各種の記載、既知産地が示されている。兵庫県産として次の5種がある。

1. *Serica nigrovariata* Lewis フロホシビロウドコガネ
氷ノ山 (高橋)

2. *S. boops* Waterhouse ヒゲナガビロウドコガネ
従来、*niijimai* とされていいたものが、実は本種のことであった。原産地が摩耶山であるが、氷ノ山でも1971年7月中旬に、辻のヤマト、モモケと共に多数採集した。

3. *S. nipponica* Nomura ヤマトビロウドコガネ
氷ノ山 (辻), 六甲山

4. *S. nitididorsis opacidorsis* Nomura ^{ホソヒゲナガ}ビロウドコガネ
氷ノ山 (高橋)

5. *S. trichofemorata* Nomura モモケビロウドコガネ
氷ノ山 (辻)

辻